

ざいそう

ファン気質に思う

田 中 和 夫



プロ野球ファンは全国各地に在って、テレビや球場で観戦して一喜一憂するのが常である。

2003年プロ野球日本シリーズが今回7回戦を経てダイエーホークスの優勝で幕をとじた。野球ファンは勿論のこと、両チームの熱烈ファンを手に汗して十分楽しませてくれた。特にセ・リーグの覇者阪神タイガースは18年振りの優勝で舞い上がり、昨年まで低迷していた鬱積を吹き飛ばし、その快挙に酔い、日本シリーズでも熱いファンの期待に応えた年でもあった。時期を同じくして海の彼方でもニューヨークヤンキースに移籍して1年目の松井ゴジラが奮闘、新人王まで競う状況をテレビ放映され、日・米ファンからも熱い声援を受けていた。野茂・松井選手に代表される日本のプロ野球選手がアメリカの大リーガーチームで活躍している事に来年以降大いに期待したい。スポーツの中でも野球は小人から大人まで愛好されている。近年アマチュア階層でもチーム育成に良き指導者を置き洗練されてきた。その代表が高校野球であり、甲子園出場の伝統校であろう。各高校共、真摯なプレーと力強い応援が味方を励まし、観る人の心を爽快にしてくれる。これが高校野球の神髄であり多くのファンを集める所以でもあろう。

野球好きは人によって受止め方に温度差がある。一般的なファンは過去に功績のあった監督や華麗な選手の所属するチームと思われる。熱烈ファンや熱狂ファンとなると華麗さの中に粘り強さを秘め、ピンチやチャンスに期待度の高い選手の所属チームがファンを拡大するのは当然だろう。何れにせよ、アマ、プロを問わず、選手と観衆が一つの小さな白球に集中できる野球が大好きである。私もご多分に漏れず草野球から興味を持ち、高校球児として憧れの甲子園を目指し血を吐いたが実現出来なかった苦しい経験を経た一人である。当時は硬式の部活をする学校が少なく、昨今の各県内での代表でなく中国地方では5県対戦での優勝校が甲子園に代表として出場できた時代であった。その後、社会人野球を目指したが体調を崩し断念、故郷に帰り再就職。地域の軟式野球チームで活躍し周辺市からも評価を得て順調に推移したが然し肩を壊した、軟式に変わって10年が経過していた。丁度その頃転勤の内示もあり、これを契機に野球を断念する事とした。

転勤が福山に決まり広島県民となりカープファンを自称した。原爆で打ちのめされた市民にとって、カープは弱くとも、かけがえのない心の支えとなった。苦しかった球団の窮状を市民のタル募金で支え、12球団で契約金が激安であっても頑張った選手、市民と球団が一体となって盛り立てた。どの球場でも熱狂するファンはいるが罵声をとこと構わず浴びせるのは、聞くに耐えない。何れにせよ、整然と応援するのは熱烈ファン、感情が切れて絶叫するのが熱狂ファン、両者ともこれが野球好きなファンの気質でしょう。

カープファン理由の二つ目は昭和50年に初優勝した時のメンバーのうち、特に俊足の高橋慶彦、ホームランバッターの山本浩二、鉄人衣笠祥雄の熱烈なファンとなった。その後甲子園を沸かし、社会人野球の協和醗酵を経て昭和56年のドラフト会議で広島が1位指名した津田恒実投手の入団であった。彼の評判は高く、真っ向からバッターと勝負するタイプで江夏、堀内に通じるものを感じさせていた。入団1年目、11勝を上げ新人王を獲得している。ストレート主体のピッチングで勝負する彼の心意気に感動した。

ここで津田投手の入団以降の足跡を振りかえると、2年目、前半は順調な滑り出しから後半肩を痛めて一時戦線離脱、終盤復帰、結果的にはセ・リーグ勝率1位となっている。3年目、右手中指血行障害で戦列を離れ治療に専念、この年カープはセ・リーグ4度目の優勝を果たし阪急との日本シリーズにも勝ち日本一に輝いている。昭和61年、津田投手ストッパーに転向。躍り上がるように投げ込むストレートで勝利し、その球の速さに敵、味方を感嘆させた。これが炎のストッパーの誕生である。昭和63年、リリーフ転向3年目津田投手に危機が迫る、この年広島のサヨナラ負けは14試合を記録しているがその内津田での負けが9試合で以前の神通力は完全に消えて「サヨナラの津田」とまで云われて優勝争いから脱落。前後して山本浩二、衣笠の主力選手の引退でリーグ最下位まで落ち込んだ。平成元年「サヨナラの津田」から不死鳥のように甦った津田は念願のセーブ王、最優秀救援投手にも輝いた、最高の年であった。打たれても打たれてもストレートに命を賭けた彼を、熱烈なファンとして尊敬した。平成5年7月、行年32才で他界した彼の野球に対する真筆な行為に対して哀悼の誠を捧げると同時に広島カープの今後の隆盛を祈り何時までも熱烈ファンを続けたい。

近年のプロ野球を白けさせている原因が巷で囁かれている。その原因にはドラフト制度の機能低下、FA選手や実戦力対応選手を金銭で否応なしに獲得する読売巨人に代表される球団のやり口、野球実況放送を巨人主体に放送する報道のエゴ（山間地域は電波が届かない）、TVアナウンサーも画像で視聴者が観れる範囲を力説質問に終始、素人紛いで幻滅する、野球解説者はプロ経験者であり、プレーする選手の置かれた立場の心理状態を主体に解説させれば見る人を感動させ興味を増す事が出来ると思う。又アメリカの大リーグ野球に夢を託し日本の野球選手が次々と流出する事は日・米対等な技術が備わった訳でなく、アメリカのチーム数が増えた事に起因し日本人でも参画出来る環境が整ったからであろう。何れにせよ野球環境の変化で日本のプロ野球が衰退しない事を祈りたい。

—たなか かずお 佐藤工業株式会社中国支店土木営業部長—